

暦について調べる



暦(こよみ)は時間を区切り、年や月、日を計測するための体系であり、人類の歴史において重要な役割を果たしてきました。季節や行事など、私たちの生活においても暦は重要な役割を担っています。

暦の世界に足を踏み入れて、知識を深め生活に取り入れてみませんか。



暦の基礎知識

『暦』 東京堂出版 1993【449.8 ヒ】

暦の基礎や日本で行われた暦法、暦の内容、さまざまな暦の種類などについて解説しています。暦に慣れすぎているため、意外に知らない暦の知識やその歴史、そして、時刻制度についても紹介しています。

『暦入門』 雄山閣出版 1994【449.3 ヲ】

日本の暦や世界の暦がどのように返還してきたのか、それぞれの暦の利用の仕組みや特徴をわかりやすく解説しています。また、年中行事との関わりや暦と迷信についても深く掘り下げられていて、興味深い内容となっています。

『旧暦読本』 創元社 2006【449.3 オ】

旧暦と新暦の違いという基礎知識を踏まえながら、二十四節気や七十二候、六曜と九星、地方暦、アジアやヨーロッパの暦などを詳しく解説しています。さらに、天文学的な知識や貴重な図版も多数収録されており、古今東西の暦に関する情報を掲載しています。

暦の歴史と文化

『暦をつくった人々』 河出書房新社 1998【449.3 ダ】

人間だけが暦を必要とし、暦によって生き死んでいく唯一の生物です。ストーンヘンジやマヤ暦、ローマ皇帝からインドまで、暦の謎に挑んだ人々の熱いドラマを通じて、2000年問題の根底にある全人类的な時間の区切りを解き明かしています。

『暦の歴史』 創元社 2001【449.3 ブ】

暦に振り回されがちな現代人ですが、暦や時間は、本来、人間の生活と活動をサポートするために作られたものです。暦の起源や計測の道具、政治と宗教との関わりなどについて解説しています。

『暦一月日を奏でる世界』 国際文化交友会 2004【449.3 コ】

カレンダーの始まり、ユリウス暦とグレゴリオ暦、月から生まれた暦、太陽から生まれた暦、日本で使われた暦などについても紹介しています。さらに、江戸時代の暦や月の異名、週の曜日の呼び方についても触れられています。

『天地明察』 角川書店 2009【ウブ】

江戸時代には、生涯をかけて「日本独自の暦」を作ることに情熱を燃やした人がいました。彼は、碁打ちでありながら数学者でもあり、20年に渡る奮闘、挫折、喜び、そして恋を通じて、太陽暦を作り上げる計画に取り組みました。彼の成長とともに重圧が描かれています。

暦の活用法

『暮らしに役立つ暦の見方・つかい方』 泰光堂 1996【148.8 マ】

現代人にとって理解しにくい暦に書かれている教えを、誰にでもわかりやすく解説しています。

『旧暦はくらしの羅針盤』 日本放送出版協会 2002【449.3 コ】

真冬なのになぜ「迎春」というのでしょうか？旧暦を知れば、その答えがわかります。旧

暦とは、日本の季節を正確に読み解くために最も適したシステムです。著者が、20年間に渡る研究と実践を通じて得た旧暦の知恵を紹介しています。

『日本の七十二候を楽しむ』 東邦出版 2012【448.5 シ】

木の芽起こし、初がつお、土用のうなぎ、秋の七草、羽子板市、晦日正月など、旬の野菜や果物、季節ごとの風物詩や祭、行事などを通じて、旧暦にまつわる古き良き暮らしの知恵と楽しみ方を紹介しています。

暦と生活

『和の暮らしが楽しい!おうち歳時記』 成美堂出版 2005【386.1 ヲ】

正月、節分、雛祭り、花見、七夕、クリスマスなど、生活の中に自分なりの年中行事を取り入れてメリハリをつけてみませんか。いわれや由来、お約束などを取り入れて楽しむアイデアがたくさん紹介されています。

『暮らしと台所の歳時記』 PHP エディターズ・グループ 2013【596.3 ヤ】

東風解凍、菖蒲華、霜始降、雲下出麦など、敏感に季節を捉えるエッセイと旬の野菜レシピが掲載されています。山本文子さんが台所で旬の野菜と向き合うことで旧暦を感じる体験を記録した一冊です。

『暦と暮らす』 NHK出版 2020【911.3 ウ】

多くを手でこなす生活は不便ですが、不幸ではありませんでした。立春から大寒まで暦に暮らし、俳句に親しみ、先人の知恵に生きる喜びがあります。俳句を通じて伝えられた昭和日本の「季節暮らし」の逸話集です。

暦としきたり

『行事としきたりの料理』 婦人画報社 1993【596.4 ギ】

現代の都市生活から失われつつある行事やしきたりを、料理の観点から考察しています。行事料理の本来の形態を踏まえながら、現代の生活におけるあり方を提案し、また、民俗学の視点から各行事の意味や返還などを解説しています。

『行事と節句の迎え花』 婦人画報社 1998【793ギ】

正月、花見、七夕、収穫祭など。季節を知らせる行事や節句に華を添える生け花。伝統と新しいスタイルを見事に調和させた生け花界の各流派家元や代表作家 87 人の競演が紹介されています。

『白洲家としきたり』 小学館 2010【386.1シ】

日本に古くからある「しきたり」の由来を四季折々の美しい写真とともに紹介し、失われつつある日本人の「心のかたち」を再考しました。著者自身が伯洲次郎、正子を祖父母に持つことから、特別なエピソードもたくさん掲載されています。

『日本の 365 日を愛おしむ』 東邦出版 2019【386.1ホ】

1 年 365 日、それぞれ関連する年中行事や記念日、季節の変化を表す言葉をわかりやすいイラストとともに紹介しています。花鳥月や旬の食材を通じて暮らしを彩る要素も取り上げ、暦の知識を活かして 365 日をより楽しむ方法も提案しています。

インターネットで調べる

「暦会館」(おおい町公式ホームページ)

<https://ooi-koyomi.info/>

「こよみ博物館」

koyomi.todan.co.jp

「国立天文台天文情報センター」

<https://eco.mtk.nao.ac.jp/koyomi>

データベースで調べる

国立国会図書館

ジャパナレッジ

※ご利用の際には、お手続きが必要となります。